

地域コミュニティにおける地蔵菩薩の現代的意義についての考察

岐阜大学 学生員 ○ 儘田 健史
 岐阜大学 正会員 奥嶋 政嗣
 岐阜大学 正会員 秋山 孝正

1. はじめに

現在のまちづくり計画においては、機能的な面から公共施設整備などの計画を考える場合が多い。一方で、地域コミュニティに配慮した計画案を検討するためには、市民生活の地域的な精神性を検討することが重要である。本研究では、古くから日常的に親しまれている地蔵菩薩を対象として地蔵菩薩と地域コミュニティとの関係について実態調査を行う。これらの結果に基づいて、地域コミュニティにおける地蔵菩薩の現代的意義について考察を行う。

2. 地蔵菩薩の意義の整理

ここで、仏教における地蔵菩薩の歴史的な背景より地域における地蔵菩薩の意義について整理する。

2-1 仏教における地蔵菩薩

地蔵菩薩の菩薩とは、利他的精神であり一切衆生を救おうと努める思想がある。これは公共性という意味で土木工学の思想と一致する。また、地蔵菩薩とは、地獄の苦から衆生を救済するという本願を持つ。地蔵は元々密教的要素を持っており、地神の化身である。さらに利益の特色は六道抜苦、あらゆる場所に姿を変えて現れ、六道輪廻に苦しむ人々を救う。地蔵は仏教と共に飛鳥時代より伝来した。しかし、当時は小乗仏教の要素が強く一般民衆の信仰とはかけ離れた存在だった。平安時代末期になり、「末法思想」の影響を受けた仏教の民衆化とともに、地蔵信仰も大衆化していった。

2-2 地蔵信仰の大衆化

民衆にとって親しい存在となった地蔵は、鎌倉時代にかけて「神仏習合」ともあいまって、様々な民族信仰と習合し、本来の経説の枠を超えた独特の信仰を形成する。また、室町時代には地蔵信仰はさらに深化して普及し、特にこどもの救済神とされるようになった。このような、地蔵と子供を結びつけた信仰形態で、特徴的であるのが「賽の河原」である。賽の河原は地蔵が子供の霊を守護するとの信仰であ

るが、賽の河原は元々道祖神を祀る民族信仰であり、それが地蔵と習合される。これは地蔵が村境・路傍・四辻などに祀られる事から、守り神的存在、案内者としてなどの民族信仰と結びついていったと考えられる。さらに、子供と地蔵の密接な関係は、地蔵盆の習俗（写真1参照）や水子地蔵の信仰の形で今日に生きている。



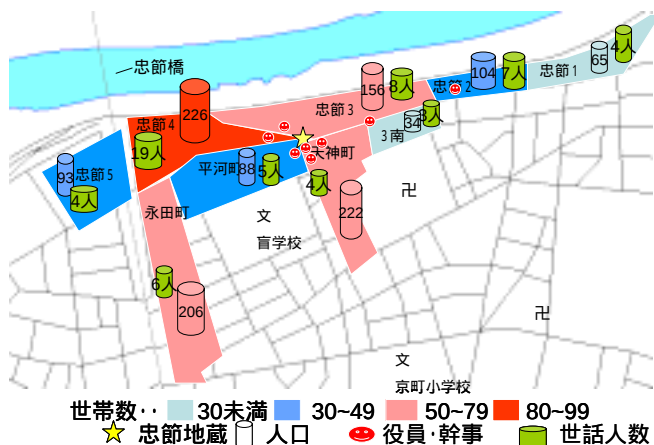
写真1 忠節地蔵本尊と地蔵盆に集まる地域住民

3. 地蔵菩薩と地域コミュニティについての実態調査

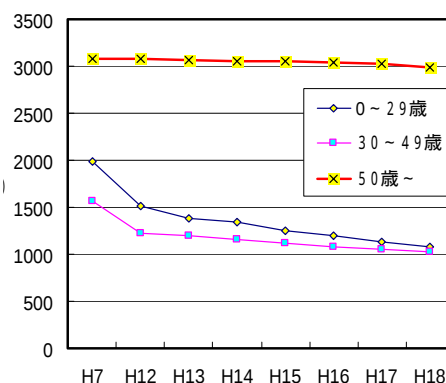
ここでは、岐阜市忠節の実態調査に基づいて地蔵菩薩と地域コミュニティとの関係および地域コミュニティにおける意義について整理する。

3-1 岐阜市忠節の地域詳細

まず、岐阜市忠節の地域詳細の説明を行う。岐阜市忠節は岐阜市中心部の京町校区に位置する。対象地域の世帯分布を図—1に示す。対象地域には、434世帯、1024人が居住している。この地域には昭和期の古い住宅が多く、個人商店も存在する。地蔵堂は四辻に面しており、道路整備がなされ、通過交通量は多い。また、図—2に示す対象地域の年齢別人口の経年変化から、少子高齢化の進んだ地域である事が分かる。次に、本尊の由来は、明治26年の濃尾地震の被災者を供養する為とされている。他には昭和50年に地蔵堂の修繕を行った際、縁の下に地蔵が見付かり、これを堂外に祀っている。これについての由来は分かっておらず、周辺地域の辻地蔵を保管していたものと考えられる。さらに水子地蔵が地域住民より寄贈されており、堂内に本尊と堂外に32対の地蔵が祀られている。



図—1 対象地域の人口・世帯数・世話人の分布



図—2 対象地域の年齢別人口の推移

表—1 地蔵世話人の活動内容

忠節地蔵に関わる地域活動	活動時期	参加者	詳細
地蔵堂の清掃	月の1日, 15日	女性世話人4名	清掃, 供花の交換等
会計監査会	4月	世話人役員	年度の収支決算
世話人役員会	5月, 7月, 9月	世話人役員	地蔵盆の実施計画, 反省
世話人総会	6月	世話人	地蔵盆概要の伝達
地蔵盆	8月20日からの日曜	地域住人 世話人	先祖供養, 放生会は通例 地域住人の奉賛金有り
日常的な参拝		地域住人 通行人	延命地蔵と水子地蔵 賽銭収入, 月15000前後

3-2 忠節のコミュニティの実態

対象地域での地蔵に関わる地域活動についてヒアリングを行った。この結果に基づいて、忠節地蔵に関わる地域活動の概要を表—1に示す。

管理コミュニティの現状：忠節の地蔵には管理コミュニティである世話人が存在し、地蔵盆の際に協力し雑務などの役割分担がなされる。清掃や維持などの日常の管理は世話人役人10名程度で交代する事なく役割が決まっている。これらの役割は負担に感じる事なく生活の一部として自然に行われる。

地域行事・地蔵盆：地蔵盆では、先祖供養と放生会が行われ、子供向けのゲームや、盆踊りなどが企画される。地蔵盆のイベントは地域住人からの先祖供養依頼236件と、地域住人、特に個人商店からの奉賛金70件によって支えられている。このように、先祖供養のため地域の半数の世帯が関わり、150人程度の地域住人が参加し地域交流の機会となっており、地域固有の行事としての共通意識が見られる。

日常的な生活との関係：50人/日程度の参拝者が存在し、賽銭収入が月平均15000円程度ある。この地域は高齢者が多く、健康と長寿を願って参拝が行われている。水子地蔵への参拝、通行人の参拝も多い。また、地域の中高齢者は幼少期に地蔵周辺で地域の子供同士で遊んだ記憶をもっている。このように、高齢層においては郷愁的、心のやすらぎを提供している。

3-3 忠節地蔵の意義

ヒアリングによって得られた事についての考察を行う。地域の高年齢層が共有する地蔵の記憶から、地蔵を古きよきものとして残していこうという意識があり、日常で管理されているのである。

また、地蔵盆には高齢者ばかりでなく若年層や子供も多く参加している。参加する理由としては「子供が行きたがる」というものがある。子供達にとって地蔵盆は単なる伝統行事では無く、その地域への愛着を生み出すものであり、馴染み深いものとして地蔵が存在しているのである。

4. おわりに

本研究では、地蔵菩薩の歴史的な背景を整理するとともに岐阜市忠節地域を対象とした実態調査より、地域コミュニティにおける地蔵菩薩の現代的意義について検討した。研究成果は以下の様に整理できる。

管理組織の活動、高年齢層の記憶から、地域の歴史的に保存すべき共有施設としての意識がみられる。

地蔵盆での地域交流の実態から、伝統的イベントとしての地域活動の一部としての意識がみられる。

子供達にとって、地蔵は地蔵盆などをきっかけに地域への愛着を生み出す装置として存在する。

また、今後の課題としては、地域住民の意識調査によりこれらの考察の検証を行う事が必要である。

【参考文献】

- 1) 速水侑：観音・地蔵・不動，講談社現代新書，1996